

令和元年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和2年2月27日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
力と健やかな体を育成する 主体的・対話的で深い学びにより、確かな学習	言語活動の充実	言語に関する能力を高め、思考力、判断力、表現力等の育成を効果的に図るために、それぞれの教科の特質に応じた言語活動（自分の考えを話したり書いたりする活動、目的を明確にした交流活動）を意図的に行う。	B	B	・国語、算数、道徳の3部会で問題解決的な学習の研究を発表。 ・漢字の学習は、意味がわかる語彙指導であるという認識が定着してきた。 ・意味調べやねらいをもった正確な音読「意味が分かって読めること」を大切にする授業への転換が図られつつある。	A	・先生方が教材や板書を工夫し、子どもたちがわかりやすい授業となるように努力していた。 ・教室掲示等工夫がされていて、子どもたちのやる気を引き出している。	・一人一人の教員が各教科の特質に応じた言語活動の授業を意図的に行うようにする。 ★子どもたちの学力が向上するような授業づくりをめざす。
	学ぶ意欲の向上	子どもの「できる・わかる」を引き出すとともに、問題解決的な学習を実践する。	B					
自尊感情・自己肯定感を育み、温かな気持ちで関わり合える集団づくりに取り組む	「自尊感情」や「自己肯定感」の育成	「居場所づくり」や「共感的人間関係づくり」を目的とした実践に、計画的に取り組む。	A	A	・「いなほトーク」の意義を全職員共通理解のもとに実施。相手の顔を見て話す、聞くことを徹底指導した。 ・「道徳ノート」を全校で統一して使用。ふり返りで自己の変容を評価することも全職員共通理解できた。	A	・道徳教育において、人間の心の動きとなる教材の使用も見られてよかった。 ・先生方が教室をくまなく巡回し、子どもとのやり取りを大切にしている。	・「自尊感情」や「自己肯定感」を育むための授業づくりや行事を計画する。 ★教師と児童の間関係の構築がとても重要。今後も児童とのコミュニケーションを大切に子どもと接していく。
	思いやりや助け合いの心を育てる道徳教育の推進	児童が自分をとりまく様々な人々の存在に気づき、互いを認め合いながら、人間愛を根拠とした具体的な行為の意義を実感できるような道徳授業を実践する。	A					
家庭や地域との連携を密にし、安全安心で開かれた学校運営を推進する	地域ぐるみの教育システムの構築	地域教育ボランティアや保護者、地域住民、地元企業等を活用した授業や体験活動を実践する。	A	A	・全ての学年で、地教ポと関わる授業を展開。 ・地域交流型クラブを8つ実施。講師12名。 ・地教ポ「植田いなほ会」登録者100名超。 ・地震、火災、津波、不審者の避難訓練実施。 ・食アレ対応現研実施。 ・付添下校。朝の立番実施。	A	・読み聞かせや地元企業による出前授業など、充実した様子を学校のお便りで知ることができた。 ・6年生の水防災への取組も素晴らしいし、不審者対応の訓練もされており、とてもよい。	・「安全教育の手引き」をしっかりと活用し、学校の危機管理を高め、子どもたちが安心して学校生活を送れるように努める。 ★地域教育力をさらに活用していくとともに、新たな人材を発掘していく。
	非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成	「安全教育の手引き」の活用し、緊急時の対応や生活安全についての理解を深め、自らのいのちを守ったり、けがを防止したりするための適切な判断力・行動力を養う。	A					
人として学校を支える教師集団を目標とする	教師の授業力向上	「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、組織的、計画的に授業改善に取り組む。 視点を明確にした研究協議会を積み重ねる。	A	A	・グループでの話し合いを取り入れるなど「対話的な学び」への授業改善が見られた。 ・担任全員の授業公開を実施。 ・登校しぶり児童、授業に集中できない児童などに対し、全職員で教育にあたる体制ができていた。	A	・学校経営に対する取り組みがきちんとできている。 ・クラスの中で気になる子がいても学級で浮いた存在ではなく、とてもよい雰囲気の中で授業が行われている。	・植田小の授業モデル案を基に授業研究を積極的に行う。 ★現職研修として、研究授業だけでなく、ベテランの教員から実技研修等の機会を設定する。
	学び合い、助け合う人間関係づくり	児童の学習面、生活面について、随時情報の共有を図り、学年、学年団を中心に、組織で対応する。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】